

第6学年1組 学級活動指導案

指導者 小林 寛人

1 議題 「お楽しみ集会」の具体案を決めよう

2 議題について

(1) 児童の実態 (男子14名 女子16名 合計30名)

本学級の児童は、小さなトラブルはよくあるものの、一人一人の個性を認めて触れ合うなど互いを理解し合い、困っている友達がいると気付いたらすぐに声をかけるような思いやりの心をもっている。

普段の学習中の様子を見ると、学級全体の前で自ら自分の意見を伝えようとすることに抵抗を感じている児童が多い。シグナルⅡの学級行動特性「自由に発言できる雰囲気がある」の項目における肯定的回答率は48.3%である。そこで、児童に「なぜ意見を発表できないのか」と問うと、一番多かった理由は、「自分の解答に自信がないから」というものだった。次いで、「答えが分からないから」、「間違えたら恥ずかしい」「間違えたら笑われるかも知れない」という回答が多かった。したがって、自分の意見を伝えることに否定的な考えをもつ児童は、意見を伝えられない理由として、「①自分の意見をもてない」という自己の能力としての問題と、「②周りの反応を気にしている」という周囲の環境の問題という2つの問題を抱えていると思われる。よって、児童が「自分の意見もちやすい」議題と、「意見を伝えやすい環境」を整えて、話し合い活動を行うことが、本学級の児童が自分の意見を表現する力を伸ばすことに必要なことであると考え。そして、その力を伸ばすことは、学級における所属感をより一層深め、各教科等の学習を効果的に行うことにつながると考える。

また、今までの学校行事（入学式や運動会）や農山村留学などでの児童の様子を見ると、最高学年として下級生の手本となったり、農山村留学の各活動の目標を達成するために努力したりと、責任感をもち、自主的に活動している姿が多く見られた。しかし、児童の中にはまだ力を伸ばす余地を残している者も多くいる。児童たちはあと数カ月で小学校を卒業する。中学校では今よりもさらに、一人一人が責任感をもち、自主的、実践的に活動していかななくてはならない。そのために、児童が自分たちの学級や学校をよりよくしようという考えを、自発的にもち、そして実行に移すことができるような活動が大切であると考え。そこで、話し合い活動を重点的に行っていきたいと考えるが、児童はその経験が乏しい。そこで、まずは児童一人一人が「話し合い活動は、楽しいものなのだ」「自分の意見を伝えることって楽しい」と感じられるようにしたい。そのために、まずは本議題のような、自分が意見もちやすい議題について話し合い、よりよい話し合い活動の経験を積ませた後に、学校全体をよくしていくような問題に目を向けさせるようにしていきたい。このように段階を踏んで取り組むことで、児童が自己の力を伸ばし、さらに互いの人間関係を育んでいきたい。

(2) 議題選定の理由

本学級の学級目標は「信頼 助け合い」である。これは4月に児童が、今の自分たちにとって足りないもの、必要なものは何かを考えたときに上がってきたものである。今まで事あるごとに仲間との関係について確認してきた結果、学級目標を達成するための意識は強くなっている。しかし、上述したようにシグナルⅡの学級行動特性「自由に発言できる雰囲気がある」の項目における肯定的回答率が低かった。この理由についてあがった、「間違えたら恥ずかしい」「間違えたら笑われるかも知れない」という児童の意識について考えると、児童の関心に「信頼」があるのか疑問に思われる。つまり良い信頼関係が築けていれば、このような「恥ずかしい」などの意識は表れないはずである。そこで、児童に「まずは自分が仲間を信頼し、そして信頼されるような人間関係を築こう」と呼びかけると、学級のポストに「信頼を築けるようなことをしたい」という意見が入った。そこで児童に「信頼を築くためには、どのようなことをすればよいか」とアンケートをとると、「みんなで楽しく過ごすような集会をしたい」という意見が多くあがった。児童は信頼関係を築くためには、楽しく豊かな時間を互いに過ごすことが必要であるととらえている。このように、楽しく豊かに過ごすための話し合い活動を行うことが、学級目標を達成するための手立てとなると考え、本議題を設定した。

また、楽しく豊かに過ごす集会について話す本議題は、話し合い活動に慣れていない本学級の児童にとっても、自分の意見をもちやすい議題である。このような話しやすい議題についての話し合い活動の経験を積んだ後に、学校をよくするような大きな議題について話し合うようにしたいと思い、本議題を設定した。

3 第5学年及び第6学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

4 研究主題とのかかわり

部会の研究主題・研究仮設は以下のとおりである。

研究主題

「自発的・自主的に行動し、生きる力を身につけた児童生徒の育成」
～望ましい集団活動を通して、児童生徒の自主的・実践的態度を育成する指導の在り方～

研究仮説

- (1) 学級活動等の集団活動において、①集団の実態を踏まえ、②一人一人の児童生徒の課題意識や役割分担を明確にし、③活動の過程を具体的に掴ませ、活動に取り組みせれば、児童生徒の集団への帰属意識や活動での達成感が高められ、自主的・実践的態度が育つであろう。
- (2) 話し合い活動において、①話し合いの効率化を図るとともに②活動目標の共有化を踏まえて、③考えや取り組みの可視化や④認め合う活動等を行っていけば、取り組みへの意欲や達成感が高まり、自主的・実践的な態度が育つであろう。

常時活動に関わる手立て

- 「意見を伝えやすい環境」を整えるための小グループによる話し合い活動の積み重ね
… (1) ①、(2) ④

本学級の児童は、68%が自分の考えを伝えることに苦手意識をもっている。そこで、本校では毎朝10分間の読書タイムを設けているが、週に2回程度、小グループによる話し合い活動を行っている。初めの5分間で教師が提示した短い文章を読み、それについて、自分の意見をもつ。次の5分間で、3、4人の小グループで自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりして、主題について話し合う。そこでは、友達の意見に対して、ハンドサインや「いいね」や「なるほど」などの短い言葉で共感し合い、自分の考えを伝えやすい状況を作り出している。この活動を積み重ねることで、学級での話し合い活動でも、児童個々の考えが反映された話し合い活動を行う手立てとしたい。

またここでは、進行役と記録役を順に回すことで、話し合い活動の進め方や役割の意味を日常的に行っていく。小グループでこのような手立てを打つことで、多くの児童に話し合い活動の経験を積ませていくことになると思う。

- 話し合いの流れの可視化… (2) ③、(1) ①、③

児童は話し合い活動の経験が少ない。よって、話し合いがどのように進められていくか、流れが理解できていない児童も中にはいる。そこで、「議題」「提案理由」「話し合いのめあて」「話し合い」「決まったことの確認」「ふりかえり」「先生のお話」と書かれた掲示物を用意する。そうすることで、今何をやっているのか、これからどんな活動をするのかが分かるようにして、見通しをもった活動ができるようにしたい。

○話し合いカードの事前準備… (2) ①、②、(1) ①

児童には話し合い活動を行う前に、「話し合いカード」を配布する。そこには、今回の議題と、それに対する自分の考えを記入する欄を設けておく。事前に議題を伝えておくことで、話し合い当日に自分の意見を伝えやすくなるを考える。また、自信をもって自分の意見を言えるように、一人一人のカードに考えを認めるようなコメントを入れておきたい。

○児童全員の意識の可視化… (2) ③

複数の意見が出て、どの意見にするか最終決定を行う際は、学級全員による多数決を行う。しかし、児童の中には「A案に迷うことなく賛成派である」という児童や、「B案の良さもわかっているのだけれど、ややA案に賛成派である」という児童など、様々な思いがあるはずである。これらを正確に表現して、全体の意思決定をしていくことが、好ましいと考える。そこで、多数決を行う際は、点数制の多数決を行う。つまり、3点は「迷うことなく賛成」、2点は「やや賛成」、1点は「やや反対」、0点は「反対」と振り分けて、児童の意見を集める。複数の意見に対して、児童全員の意見を点数化することで、より正確に全体の意見を把握できるようにできると考える。

今回の議題に関わる手立て

○「自分の意見を持ちやすい」議題… (2) ①、(1) ②

本学級の児童は、自分の意見をもつことが難しいと考える児童が多い。楽しく豊かに過ごす集会について話す本議題は、話し合い活動に慣れていない本学級の児童にとっても、自分の意見を持ちやすい議題である。このような話しやすい議題が、本学級の児童が「話し合って楽しい」と感じるために必要なものである。このように感じさせることで、「自分たちで問題を解決することは楽しい」という、自治的な態度を育てるようにしたい。

5 事前の活動

【計画委員会の活動】

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1 1月3日 (月) 帰りの会	話合いの計画を作成する。	学級ポストに入っ た内容を基に、最 終的に目指す学級 の姿の共通理解を もって計画を立て させる。	【知識・理解】 学級集団としての意見をま とめる話合い活動の効率的 な進め方などについて理解 しようとしている。(観察・ ワークシート)
1 1月5日 (水) 業間休み	アンケート結果から、 「お楽しみ集会」を行 うことを決定し、学級 に知らせる。	意見を整理しなが ら、学級活動とし て実現可能な内容 にしぼっていくよ うに支援する。	
1 1月12日 (水) 業間休み	アンケートをもとに、 集会のメインとなる活 動をどのようなもの にするか、ある程度の数 に絞っておく。話合い の進め方を確認する。	話合いの流れをイ メージさせなが ら、活動の見通し をもたせる。	【知識・理解】 話合いの際に話合い推進委 員として、気を付けること を活動計画に書いている。 (話合い推進委員会活動計 画カード)

【学級全員の活動】

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1 1月4日 (火) 帰りの会	自分たちの学級目標を 達成するための活動に ついて、自分の意見を アンケートに記入す る。	自分の意見をは っきりとさせる ために、理由など もなるべく細か く明記させる。	【関心・意欲・態度】 学級生活の充実と向上にか かわる問題に関心をもっ ている。(ワークシート)
1 1月10日 (月) 帰りの会	集会の主な活動でどの ようなことをしたい か、自分の意見をアン ケートに記入する。	自分の意見をは っきりとさせる ために、理由など もなるべく細か く明記させる。	【関心・意欲・態度】 学級生活の充実と向上にか かわる問題に関心をもっ ている。(ワークシート)

6 本時の展開

(1) 児童の活動計画(別紙)

(2) 教師の指導計画

①目標

○学級で行う集会に対して、よりよい具体案をつくるために話し合おうとしている。

(関心・意欲・態度)

○楽しく豊かな学校の生活をつくるために話し合い、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践できる具体案について話し合うことができる。(思考・判断・実践)

②展開

話し合いの順序	指導上の留意点	めざす児童の姿と評価
1 始めの言葉 2 役割の紹介 3 議題の確認 4 提案理由	○司会者が自信をもって話せるように励ます。 「お楽しみ集会」の具体案を決めよう。	
私たちの学級目標を達成するためには、学級での生活を楽しく過ごすことが必要です。私たちはあとわずかです。このメンバーで過ごす時間も限られています。卒業前にお楽しみ集会をしたいと思って、提案しました。		
5 めあての確認 6 話し合い (1) 集会の主な活動は何にするか。 【予想される発言】 ・ポートボールを前回やった時楽しかった。 ・一度もやったことのないものがよいのではないか。 (2) 係の人数を決めよう。 【予想される発言】 ・ゲーム係はルール	○「みんなが楽しめる活動を考え、みんなで意見を言おう。」というめあてを、司会者を通じて確認させる。 ○理由をつけて発表できるように助言する。 ○複数意見で最終決定するときは、それぞれの案のメリット、デメリットを踏まえて、点数化する多数決で決定するように示しておく。 ○児童の意見を教師が積極的に認めることで、児童相互の認め合いを促す。 ○児童の思考をスムーズに行わせるために、似たような意見はまとめて板書するように支援する。 ○自治的活動の範囲を越えるような場合は、必要に応じて助言する。 ○少数意見であっても、発言の機会を与え、少数意見の貴重さを伝える。 ○友達の意見をよく聞き、途中で立場や意見を	【思考・判断・実践】 楽しく豊かな学校の生活をつくるために話し合い、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践できる具体案について話し合うことができる。(観察)

<p>なども考えると 大人数いたほうが良いのではないか。</p> <p>7 決まったことの確認</p> <p>8 先生のお話</p> <p>9 終わりの言葉</p> <p>10 振り返り</p>	<p>変えてもよいことを必要に応じて助言する。</p> <p>○進行が滞った場合や話がまとまらない場合は、司会に助言をして、普段行っているグループに分かれて意見を出し合うように示しておく。</p> <p>○児童の努力を認め、話合い活動が楽しいと感じられたような意見を吸い上げ、全体と共有する。</p> <p>○司会グループにねぎらいの言葉をかけ、感謝の気持ちを全体に広げる。</p> <p>○自分のめあてと照らし合わせさせることで、良い点や反省点について自己評価させる。</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>学級で行う集会に対して、よりよい具体案をつくるために話し合おうとしている。(カード)</p>
---	---	---

(3) 事後の指導

日時	活動内容	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1 2 月上旬	それぞれの係の仕事を行う。	全員が仕事もち、個々が責任をもって活動するように促す。	【思考・判断・実践】 自己の役割や責任について考え、判断し、信頼し支え合って準備を行っている。(観察)
1 2 月下旬	「お楽しみ集会」を実施する。	児童が主体的に活動できるように、支援する。	【思考・判断・実践】 楽しく豊かな学級や話し合ったことをもとに、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。(観察)
1 2 月下旬 帰りの会	ふりかえりをする。	話合いから実践までを振り返り、自分たちで何かをすることの楽しさを確認し、次の話合い活動へ活かすようにする。	【関心・意欲・態度】 学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心を持ち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。(ワークシート)